

2020年
4月から

被扶養者の認定要件に 「国内居住」が加わります

4月からの新規要件

「国内に住所があること」



日本国内に住民票があれば、原則、国内居住要件を満たすことになります。ただし、国内に住民票がない場合でも、「日本国内に生活の基礎があると認められる」ときは、例外として取り扱われ、添付書類の提出が必要になります。

日本国内に生活の基礎があると認められるケース

例外として認められる事由		添付書類
①	外国に留学する学生	ビザ、学生証、在学証明書、入学証明書等の写し
②	海外赴任に同行する家族	ビザ、海外赴任辞令、海外の公的機関が発行する居住証明書等の写し
③	観光・保養やボランティアなど就労以外の目的で一時的に日本から海外に渡航している人	ビザ、ボランティア派遣機関の証明、ボランティアの参加同意書等の写し
④	海外赴任中に出産・結婚などで身分関係が生じ、新たな同行家族とみなすことができる人	出生や婚姻等を証明する書類等の写し
⑤	その他、日本に生活の基礎があると認められる特別な事情があるとして健保組合が判断する人	個別に判断して対応

※書類が外国語で作成されたものであるときは、その書類に翻訳者の署名がされた日本語の翻訳文の添付が必要です。

日本国内に住所があっても認められない場合もあります

日本に滞在する目的(ビザ)が右記にあたる人は、
日本国内に住所がある場合でも、被扶養者として認められません。

- 「医療滞在ビザ」で来日した人
- 「観光・保養を目的とするロングステイビザ」で来日した人

※国内居住要件の導入により被扶養者でなくなる人が施行日(2020年4月1日)時点で保険医療機関に入院している場合は、入院中であることを証明する書類等の提出により入院期間中は引き続き被扶養者資格が継続され、退院日をもって被扶養者資格が喪失されます。



4月1日以降、国内に居住(住民票)がない被扶養者については例外を除き、被扶養者資格を失いますのでご注意ください。